

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ④③  
『尾張津島秋祭り（1）』について

今年の7月の「未来を生きる子どもたちへのメッセージ」は夏祭りについて書きました。今回は秋祭りについて書くことにします。津島の秋祭りは大変贅沢な祭りで、山車（だし）・石採（いしどり）・神輿（かぐら）が登場します。

大正15年（1926）津島神社が国幣小社になったことを記念し、四つの祭り（七切祭り・今市場祭り・向島祭り・石採祭り）を合同で行うことになりました。今回はこの四つの祭りについてお話をします。

七切祭りは市神祭りとも言われ、江戸時代の津島本郷の町内（布屋・小之座・池之堂・麩屋・米之座・北口・高屋敷）の祭りで、米町にある市神社の祭礼でした。旧暦の8月15日に行われました。この祭りは、正徳元年（1711）笹に提灯をつけ、笠鉾（かさぼこ）を出して参拝したことに始まります。享保3年（1718）には山車を飾るようになり、尾張藩主徳川宗春（とくがわむねはる）の時代に華やかな祭りとなり、からくり人形をのせた山車となっていました。

今市場祭りは大土社（おおつちしゃ 今市場町）の祭礼で、ツチノミオヤ神を祀っています。小中切・朝日町・大中切の三台の山車があります。天明元年（1781）には3輛そろっていたようで、山車祭りも行われていました。小中切のからくりは5代目玉屋庄兵衛（たまやしろうべえ）が安政4年に制作した住吉明神です。

向島祭りは、天王川の西側、津島本郷に対して向島と呼ばれた津島神社神領の祭りで神社の境内にある居森社（いもりしゃ）の祭礼です。馬場町・上之町（綾車）・中之町の3輛の山車による祭礼です。元は津島の大火のあった10月15日に津島神社の近くの籠社（かまどしゃ）で行われましたが、明治維新以後、旧暦の8月1日の祭りとなりました。

石採祭りは、桑名や弥富の石取祭りの祭車を買ったもので、秋葉神社の祭礼です。南部祭車は大正5年（1915）に購入、天幕は建速須佐之男命（たけはやすさのおのみこと）の八岐大蛇（やまたのおろち）退治が刺繍されています。北部祭車は、神武（じんむ）天皇と長脛彦（ながすねひこ）との戦いの刺繍となっています。中部祭車は大正6年（1917）に購入。天幕には虎と竹の虎竹図（こちくず）が描かれています。石採祭りでは叩きだし、試楽、本楽の順で行われ、10月の第1日曜日には3輛が津島神社の楼門の前に整列し、激しいお囃子を打ちならします。

秋風や交差点に車切あと

令和5年10月10日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視